

ICTニュース 12月号

院内感染対策委員会

2015年12月発行

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

風邪に似た症状を呈す感染症です。子供に多い感染症ですが免疫低下している状態であれば全身状態に及ぶ感染症です。

A群レンサ球菌による上気道感染症です。菌の侵入部位や組織によって多彩な臨床症状を引き起こします。学童期の小児に最も多く、冬季及び春から初夏にかけて報告数のピークが認められています。

本疾患は2日～5日の潜伏期の後、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭炎によって発症し、しばしば嘔吐を伴います。軟口蓋の小点状出血あるいは莓舌(図1)がみられることがあります。また、菌が産生する発赤毒素に免疫のない人は猩紅熱といわれる全身症状を呈することがあります。

2015年の全国の定点当たり報告数の推移を見ると、第39週(9月下旬)から増加し、第50週で3.34となりました。青森県でも全国と同様の傾向を示しましたが、定点当たり報告数は全国を下回っていました(図2)。今後の発生動向に注意が必要です。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いなどの一般的な予防法も励行しましょう。

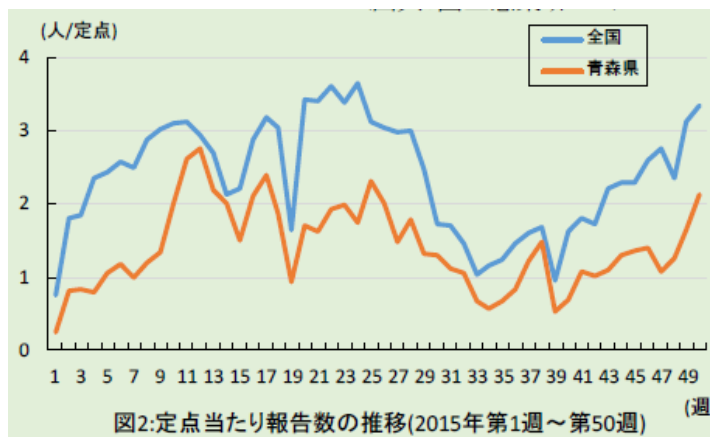


図1: 典型的な莓舌
(出典: 国立感染症研 HP)

ノロウイルス感染症情報

青森県内の届け出が患者報告数が前週の246人から285人に増加しました。特に、東地方+青森市保健所管内及びむつ保健所管内で患者報告数が多い状況が続いています。急に寒くなってきたので、これから急に発生の増加が考えられます。予防策の遵守の確認をお願いいたします。

